

証券コード：6763

個人投資家向け 説明会資料



未来のNOBLEを見据えて
抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

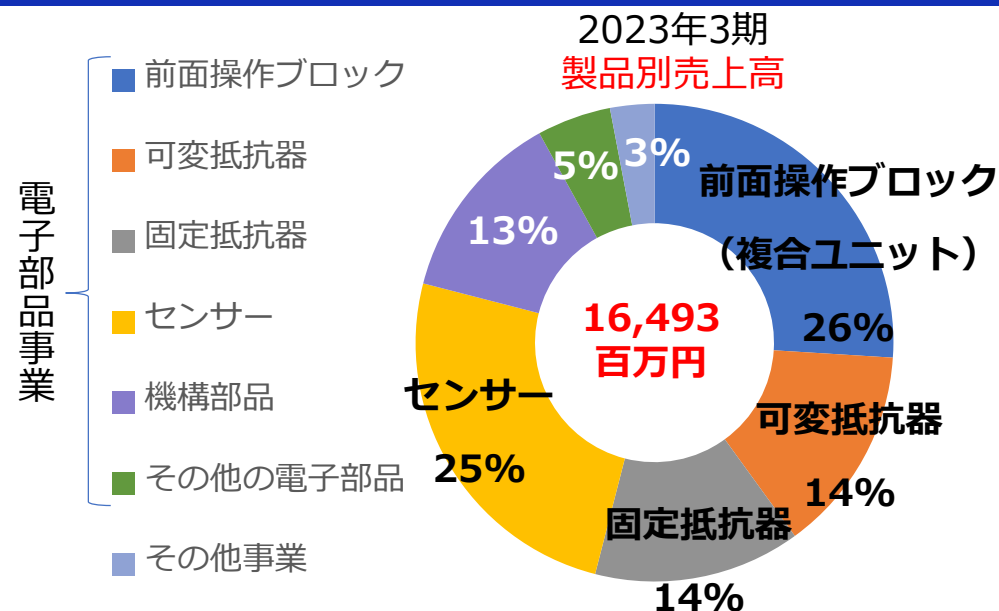
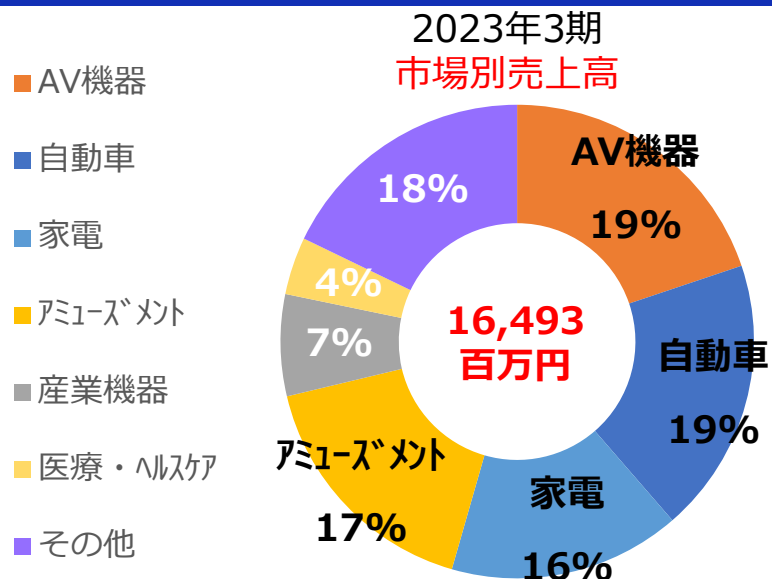
2023年9月6日

- 企業内容紹介
- 中期経営計画の進捗

- ▶ 会社概要
- ▶ 主な売上構成と主要取引先
- ▶ 弊社グループ沿革
- ▶ 弊社を取り巻く環境と目指すべき方向性①～⑤

会 社 名	帝国通信工業株式会社 Teikoku Tsushin Kogyo Co.,Ltd.
本 社 所 在 地	神奈川県川崎市中原区荻宿45-1
創 業	1944年8月1日
代 表 者	代表取締役社長 羽生 満寿夫 (はにゅう ますお)
資 本 金	34億5300万円
従業員数 (連結)	1,677名 (2023年3月31日現在 連結)
連結売上高	164億円 (2023年3月期 連結)
連結自己資本比率	82.9% (2023年3月期 連結)
グループ会社数	連結子会社 日本国内6社 海外9社 合計15社
事 業 内 容	電子回路を制御する抵抗器やセンサー、スイッチなどの各種電子部品を「NOBLE」ブランドで国内・海外に展開している、1944年に創業の総合電子部品メーカー

主な売上構成と主要取引先



【主要取引先】

セイコーエプソン、キヤノン、小糸製作所、コロナ、シャープ、ソニー、ソニー・インタラクティブエンタテインメント、デンソー、東海理化電機製作所、東芝、東洋電装、ニコン、日本光電工業、任天堂、日立製作所、パナソニック、パロマ、ホシデン、PHCホールディングス、マレリ、ミツバ、三菱電機、村上開明堂、ヤマハ発動機、リンナイ、A.O.SMITH、Behringer、Foxconn、Haier、Hisense、HIWIN、Valeo (ほか (順不同 敬称略))

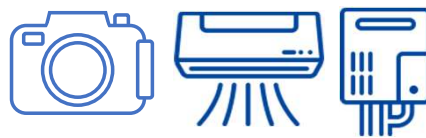
電気をコントロールする製品で、私たちのあらゆる生活基盤に密着し、活躍の場を広げています。

抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

2023年9月現在 創立79年

1940・1960・・・1970・・・1980・・・1990・・・2000・・・2010・・・2020・・・

- ・終戦後の混乱期
- ・高度成長期
- ・東京オリンピック
- ・オイルショック
- ・自動車生産台数世界一
- ・ファミコンブーム
- ・8ミリビデオ登場
- ・バブル崩壊
- ・新規ゲーム機の多様化
- ・ICB製品拡大期
- ・リーマンショック
- ・デジタル家電の流行
- ・東日本大震災
- ・タイの大洪水
- ・世界的なコロナ流行
- ・東京オリンピック
- ・地政学リスク発生



・スピーカー用可変抵抗器やトランジスタラジオ用ロータリースイッチを生産

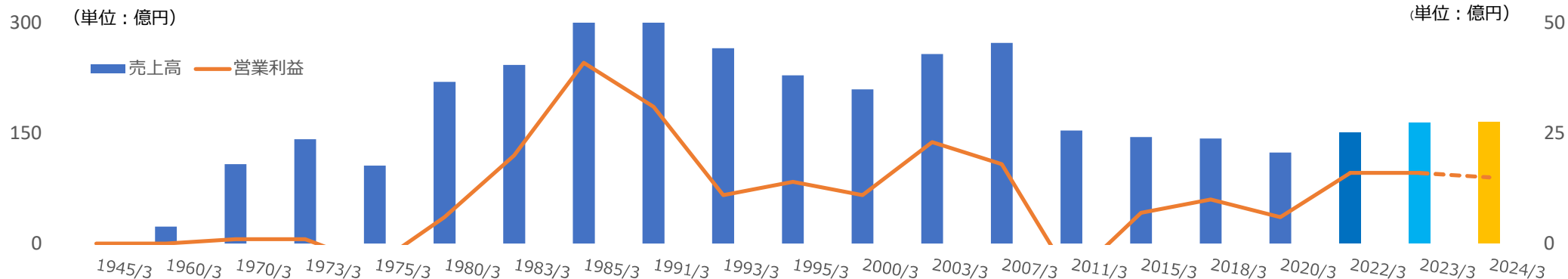
・テレビ、ステレオ、テープレコーダー等の民生音響機器用の可変抵抗器を生産

・カーオーディオ等のICB製品を生産

・家庭用ビデオカメラ向けICB製品を生産

・デジタルカメラ等デジタル家電や生活家電・住宅設備向けICB製品を生産

・自動車用ICB製品やゲーム機・医療ヘルスケア用のセンサーを生産



人と電子機器の「接点」は多様化しています。

生活や社会をより豊かにするため、様々な目的を担う電子機器が増え続けていますが、この**機器と人の間に存在する「接点」**において、意図した操作や反応、感覚をよりの確に伝達したいという欲求は、あらゆる産業分野で高まり続けることは確実です。

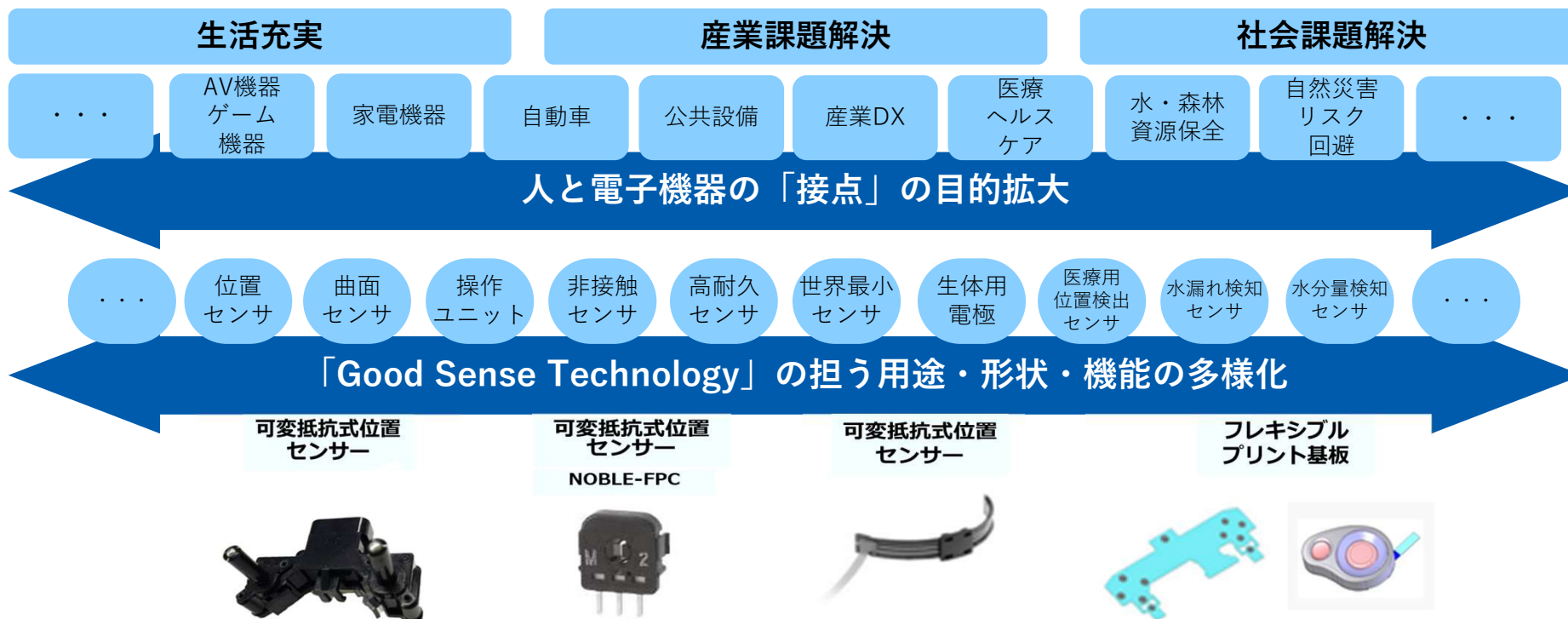


“Good Sense Technology”が担う用途や形態、機能は大きく広がっています。

急速な技術進化とともに

電子機器には、生活を豊かにする目的だけでなく、社会課題解決の目的も増えてきています。

その結果、**人と電子機器の接点を心地よいものとするための技術 = Good Sense Technology**が担う用途や形態、機能も大きく多様化しています。



**「構想力×実装力」のNOBLE WAYで、
多様化するニーズに応えるGood Sense Technologyを提供しています。**

既存製品のみでは応えきれない多様化する需要に対して、
帝国通信工業は、長年培ってきた技術・実績を活かした“構想力”と、
一貫生産による“実装力”の掛け合わせによる「NOBLE WAY」によって、様々な製品化を実現してきています。

「NOBLE WAY」

“構想力”

アイデア・開発設計・技術転用

独自技術により商品を開発

脳波測定



“実装力”

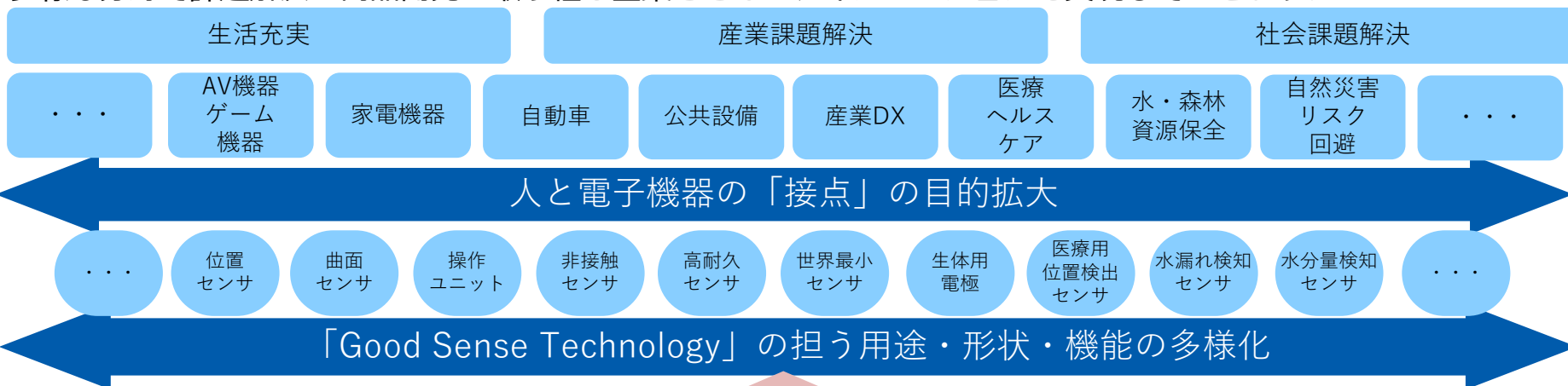
製品化・安価生産・高精度品質

一貫生産により量産を実現



**これからも構想力と実装力のNOBLE WAYで、
様々な分野の企業とともに、イノベーションを実現していきます**

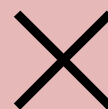
私たちならではのNOBLE WAYで、人と電子機器の接点に必要なGood Sense Technologyを提供し
多様な分野で課題解決・商品開発に取り組む企業とともに、イノベーションを実現していきます。



「NOBLE WAY」

“構想力”
アイデア・開発設計・技術転用

独自技術により商品を開発



“実装力”
製品化・安価生産・高精度品質

一貫生産により量産を実現

さあ、NOBLEと実現しよう。 Together, we make good sense.

私たち帝国通信工業はおかげをもちまして来年、80周年を迎えます。80年という長い間、私たちはたくさんのお客様と一緒に、特に人々に身近な商品のイノベーションを実現して参りました。

この80周年という節目に向けて、改めて帝国通信工業の役割を明確にし、世界・社会の技術発展に貢献していくために、新たな企業スローガンを作りました。

それがこの、「さあ、NOBLEと実現しよう～Together, we make good sense.」です。

私たち帝国通信工業はお客様と共に、人々と技術が心地良く接することができるための電子部品を多数開発してきましたが、このことを、“we make good sense”と表現しています。

※英語圏では、“we make good sense”は、パートナーや親しい友人として、お互いの性格が一致した際に使う定番フレーズです。

これからも多くの企業の皆様と共に、たくさんの“good sense”を生み出していきたいと思っております。今後とも帝国通信工業へより一層のご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



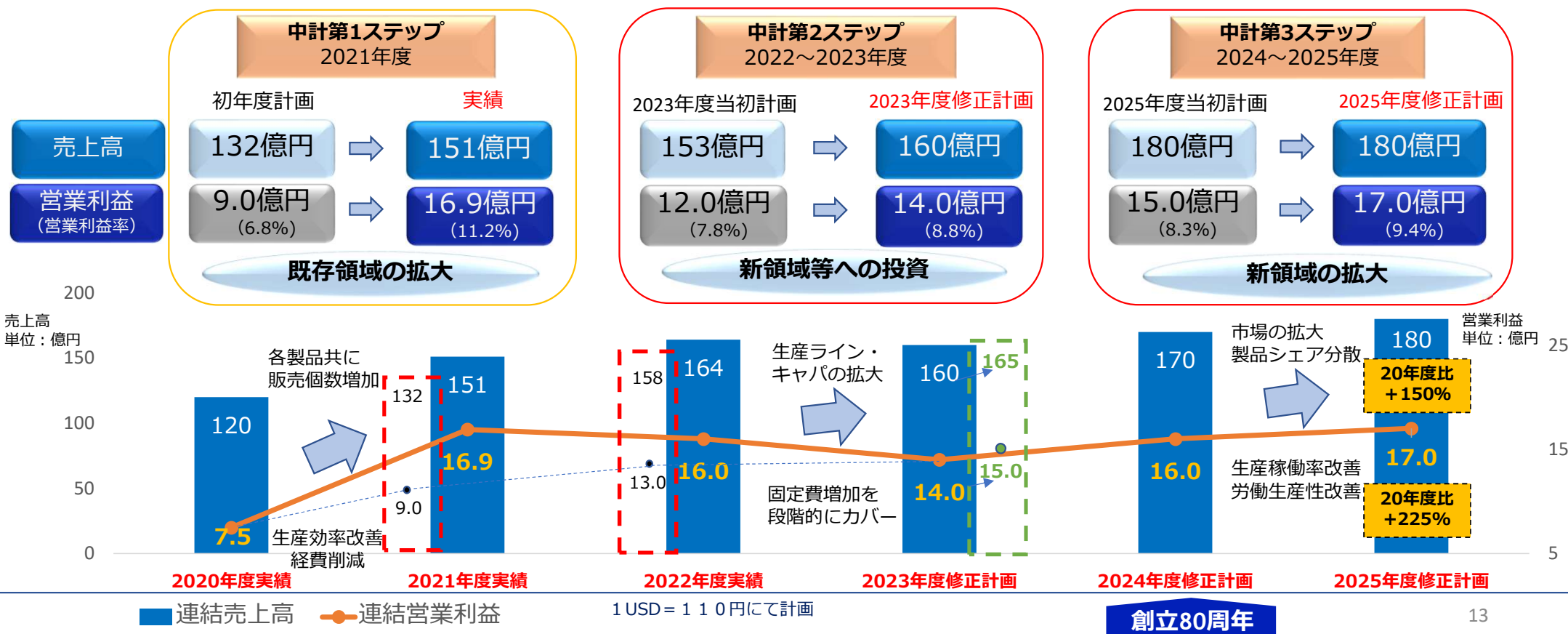
代表取締役社長 羽生 満寿夫

- ▶ **中期経営計画事業目標**（修正版中期経営計画）
- ▶ **23/3期実績と24/3期予想**（累計ベース）
- ▶ **市場別売上高の23/3期実績と24/3期予想**
- ▶ **製品別売上高の23/3期実績と24/3期予想**
- ▶ **投資計画**（設備・研究開発・事業提携等）
- ▶ **主な経営指標の実績推移・計画**
- ▶ **自動車関連商品の拡販**（中核事業）
- ▶ **医療・ヘルスケア部門の開発**（成長事業）
- ▶ **新領域の開発**（チャレンジ分野）
- ▶ **サステナビリティへの対応**（気候変動）
- ▶ **資本政策**（利益還元方針）
- ▶ **プライム市場区分適合状況**

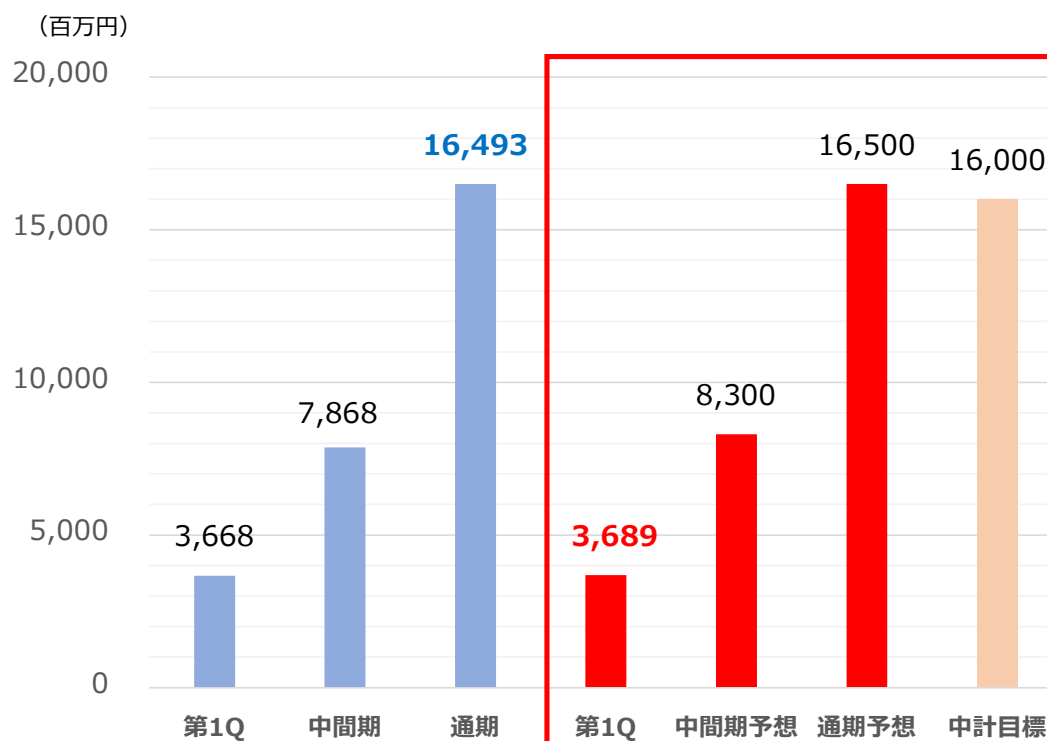
中期経営計画事業目標 (修正版中期経営計画)

修正中計の当初目標：中期計画を3段階に分け、段階毎の売上高・営業利益の目標値を再設定

- 中計第2ステップ最終年度 **2023年度売上高:160億円**・**営業利益:14億円**
- 中計第3ステップ最終年度 **2025年度売上高:180億円**・**営業利益:17億円**



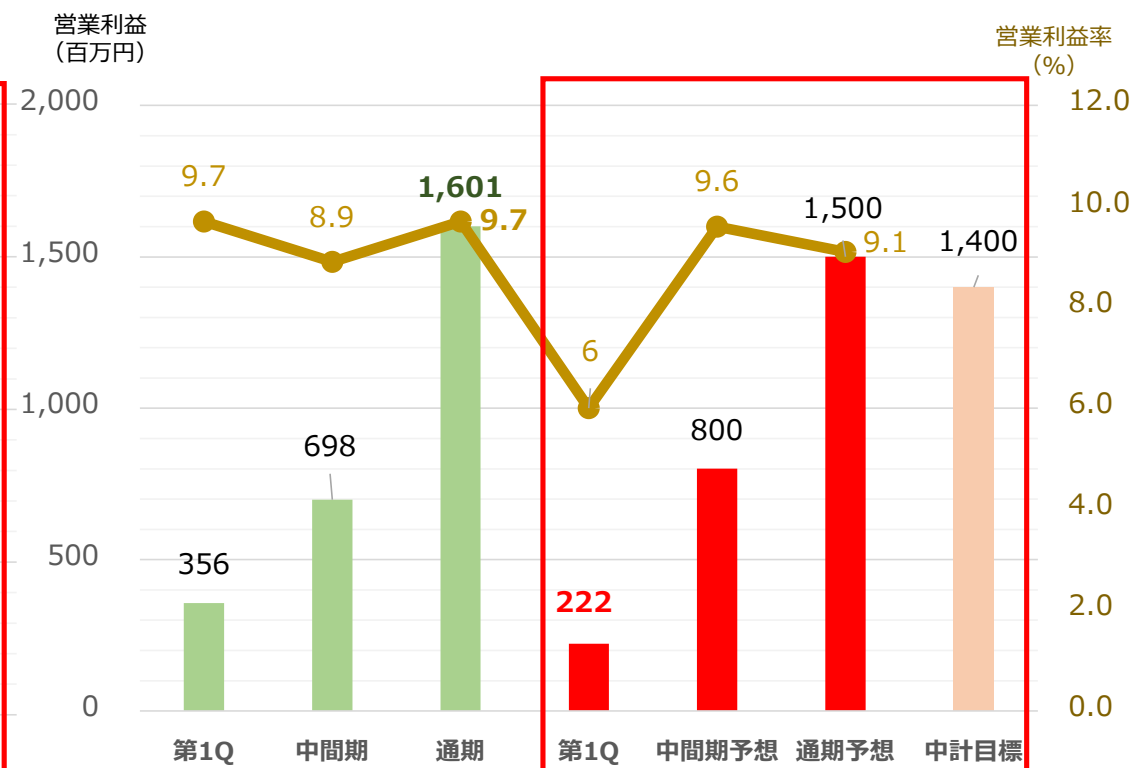
売上高



23/3期

24/3期

営業利益・営業利益率



23/3期

24/3期

市場別売上高の23/3期実績と24/3期予想



単位：百万円 () 売上内訳比率	①22/3期	②23/3期	24/3期予想			3期増減		
	通期	通期	上期	下期	③通期	②-①	③-②	③-①
AV機器	3,073 (20%)	3,294 (19%)	1,494 (18%)	1,476 (18%)	2,970 (18%)	222	△325	△103
自動車	3,060 (20%)	3,063 (19%)	1,743 (21%)	1,557 (19%)	3,300 (20%)	3	237	240
家電	2,281 (15%)	2,576 (16%)	1,162 (14%)	1,478 (18%)	2,640 (16%)	295	64	359
アミューズ メント	2,141 (14%)	2,792 (17%)	1,660 (20%)	1,310 (16%)	2,970 (18%)	651	178	829
産業機器	1,346 (9%)	1,098 (7%)	498 (6%)	602 (7%)	1,100 (7%)	△248	2	△246
医療・ ヘルスケア	358 (2%)	642 (4%)	332 (4%)	493 (6%)	825 (5%)	284	183	467
その他	2,850 (19%)	3,027 (18%)	1,411 (17%)	1,284 (16%)	2,695 (16%)	177	△332	△155
合計	15,109 (100%)	16,493 (100%)	8,300 (100%)	8,200 (100%)	16,500 (100%)	1,384	7	1,391

- 2025年度までの「市場別」中計目標

	22/3期	⇒	23/3期	⇒	24/3期見込
➤ 自動車、家電、アミューズメント：連結売上高の54%を維持	49%	⇒	52%	⇒	54%
➤ 産業機器、医療・ヘルスケア：連結売上高の17%まで拡大	11%	⇒	11%	⇒	12%
➤ 新領域：連結売上高の5%を達成	0%	⇒	0%	⇒	2%

製品別売上高の23/3期実績と24/3期予想

単位：百万円 () 売上内訳比率	①22/3期	②23/3期	24/3期予想			3期増減		
	通期	通期	上期	下期	③通期	②-①	③-②	③-①
前面操作 ブロック	4,116 (27%)	4,273 (26%)	2,075 (25%)	2,050 (25%)	4,125 (25%)	157	△148	9
可変抵抗器	2,507 (17%)	2,227 (14%)	913 (11%)	902 (11%)	1,815 (11%)	△280	△412	△692
固定抵抗器	2,136 (14%)	2,336 (14%)	1,079 (13%)	1,066 (13%)	2,145 (13%)	199	△191	9
センサー	3,021 (20%)	4,110 (25%)	2,490 (30%)	2,295 (28%)	4,785 (29%)	1,089	675	1,764
機構部品	1,882 (12%)	2,176 (13%)	1,079 (13%)	1,067 (13%)	2,145 (13%)	294	△32	263
その他	1,445 (10%)	1,369 (8%)	664 (8%)	821 (10%)	1,485 (9%)	△76	116	40
合計	15,109 (100%)	16,493 (100%)	8,300 (100%)	8,200 (100%)	16,500 (100%)	1,384	7	1,391

AVや産業機器等の減少

- 2025年度までの「製品別」中計目標
 - センサー：主力商品化（増収基盤の柱） ⇒ 22/3期 20% ⇒ 23/3期 **25%** ⇒ 24/3期見込 **29%**
 - 機構部品：外注取込みにより、連結売上高の13%まで拡大 ⇒ 22/3期 12% ⇒ 23/3期 **13%** ⇒ 24/3期見込 **13%**
⇒主力「抵抗器シリーズ」からの分散化

投資計画 (設備・研究開発・事業提携等)



- 中計第2ステップ：設備投資＋研究開発費で**17億円/年程度**を計画⇒増産、新商品開発に注力
- 中計第3ステップ：BCP・ESGを念頭においた**工場増設等の追加投資**を軸に展開。同時並行で資産の有効活用を踏まえ、人財育成・研究開発力の向上に資する新本社の建替えも検討
- 中計全般：出資・M&A等は随時検討し、主に**新領域の拡大に繋がる投資**を模索

投資実績・計画 (単位：億円)	過去実績		中計 第1ステップ	中計 第2ステップ	中計 第2ステップ	中計 第3ステップ	
	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績 計画比△4.5	2023年度 計画	2024年度 計画 既存現預金の充当・CFの捻出	2025年度 計画
1. 設備投資 (売上高設備投資率%)	8.0 (6.4%)	10.6 (8.9%)	6.0 (4.0%)	8.6 (5.3%) BCP・環境対応の見直し	12.0 (7.3%)	医療・ヘルスケア等の成長分野、 新領域等への投資 ⇒BCP・環境対応を踏まえ (含むランニングコスト削減) 工場・本社の建替・増設、 システム投資を検討中	
2. 研究開発費 (売上高研究開発費率%)	4.9 (4.0%)	5.1 (4.3%)	4.8 (3.2%)	4.9 (3.0%)	5.0 (3.0%)		
3. 出資・M&A等	-	-	2.0	- 商品企画部の新設	自社株の有効活用を軸に検討中		
合計	12.9	15.8	12.8	13.5	17.0		
(営業CF)	11.9	4.0	17.8	16.3	16.0⇒17.0	17.0	18.0

営業CFの不足部分は現預金、遊休不動産・投資有価証券等の売却により捻出し、B/Sのスリム化も図る方針

主な経営指標の実績推移・計画



「営業収益・営業CF改善」⇒「適切な投資と株主への安定的な利益還元」⇒「社員への還元と自己資本の蓄積」

- 中計第2ステップ最終年度目標 **営業CF：16億円・ROE：4.7%・ROIC：4.2%**
 - 中期第3ステップ最終年度目標 **営業CF：18億円・ROE：5.5%・ROIC：4.7%**
- ROE：8～10%・ROIC：6～8%を目指すべく更なる改善が必要

連結ベース	過年度			中計第1ステップ	4期平均	中計第2ステップ初年度	中計第2ステップ最終年度	中計第3ステップ最終年度
	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績		2022年度実績	2023年度計画	2025年度計画
営業利益(億円)	9.9	6.2	7.5	16.9	10.1	16.0	14.0⇒15.0	17.0
営業CF(億円)	21.1	11.9	4.0	17.8	13.7	16.3	16.0⇒17.0	18.0
株主資本(億円)	204.9	201.8	205.5	215.5	-	223.0	230.0	246.0
配当金(円)	50	50	40	60	50	60	60以上⇒70円	60以上
ROE(%) ※1	4.4	▲0.4	3.5	6.8	3.6	5.7	4.7	5.5
ROIC(%) ※2	3.3	2.1	2.5	5.4	3.3	5.0	4.2⇒4.5	4.7
法定実効税率(%)	30.5	30.5	30.6	30.62	-	30.62	30.62	30.62
DOE(%) ※3	2.3	2.4	1.9	2.7	2.3	2.6	2.1⇒3.0%程度	2.0程度
配当性向(%)	51.5	-	52.1	37.1	46.9 (3期平均)	42.4	47.0⇒57%程度	37.0程度

平均値底上げ

※1 ROE(%)：自己資本利益率=親会社株主に帰属する当期純利益/[(期首自己資本+期末自己資本) ÷2]×100

※2 ROIC(%)：投下資本利益率=営業利益×(1-実効税率) / (株主資本+有利子負債) ×100

※3 DOE(%)：株主資本配当率=配当金支払額/株主資本×100

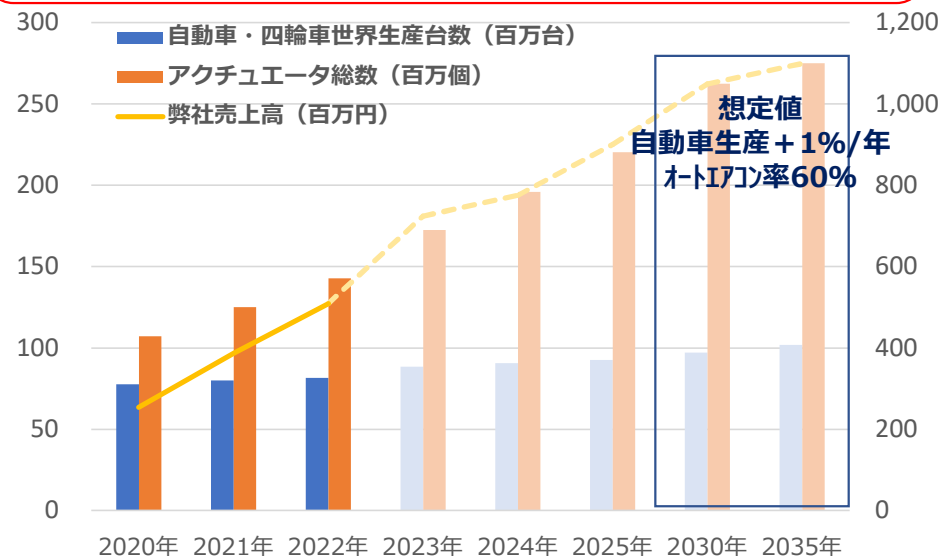
PBR改善を図るべく、財務政策・資本政策を踏まえ、経営指標は随時見直しを検討中

車内の装備充実やオート化により販売拡大が期待される自動車部品の一例 (HVAC)

(1~12月)	自動車四輪 (千台) ※1	オート エアコン率 ※2	使用数/台 (個) ※2	アクチュエータ 総数 (千個)	弊社売上高 (億円)	弊社市場 シェア
2020年	77,710	46%	3.00	107,240	2.5	6.7%
2021年	80,150	48%	3.25	125,034	5.3	8.5%
2022年	81,600	50%	3.50	142,800	5.0	7.6%
2023年	88,500	52%	3.75	172,575	市場シェア8%前後を確保し、 2025年には売上高9億円 想定 ⇒弊社自動車関連部門の 売上高の23%相当	
2024年	90,680	54%	4.00	195,869		
2025年	92,570	56%	4.25	220,317		

HVAC : Heating, Ventilation and AirConditioning system

カーエアコンの温度自動調整等で、配管のバルブ開閉はアクチュエータ（電気等の動力でモーター等の機械を動かす仕組み）で行っており、その開閉角度を、検知するセンサーを、抵抗基板で形成



※1 出所：jama 一般社団法人日本自動車工業会「世界生産・販売・保有・普及率・輸出」より
 ※2 弊社調査による推定値

- ・市場環境 : 自動車生産台数・オートエアコン率・1台当たりのオートエアコン使用個数共に増加
- ・弊社競争力 : ①価格競争力あり：自社一貫生産で、低コストでの製造が可能
 ②技術力あり：センサーに求められる、高精度(直線性)を実現
 ③商品差別化：自社製抵抗インクにより、高耐久を実現

**世界シェア8%程度を維持し、
弊社自動車関連部門の主力
商品化が期待される**

生体センシング：生体信号の測定が可能



生体電極シート

【ISO13485 認証取得】

- ・生体信号の測定が可能な薄型の電極
- ・NOBLE独自の多層印刷技術により、安定した検出を可能にするシールド層と、新規開発した肌触りのよい発泡層を形成
- ・心地よい装着感を実現



更なる成長への展望

- ・ **生体電極シートは増産体制**
⇒電極シートの検体項目の多様化、幼児から成人までの検査対象の拡大等
- ・ **2022/12に「第三種医療機器製造販売業許可証」を取得**
⇒医療・ヘルスケア業務に対するタテ・ヨコの業務展開の拡大が可能
- ・ **センサー技術の応用+検査目的・手法の多様化**
⇒他社との協業ビジネスの展開・事業提携等
- ・ **医療分野に注力した工場施設や研究開発棟の必要性**
⇒セキュリティ強化やクリーンルーム等の施設の充実



中計最終年度である2025年度には
医療・ヘルスケア事業単独で
15~20億円規模にまで成長を展望

当社技術「センサー」 + 新規開拓テーマ「水」 + SDGs「社会貢献活動」を組み合わせた活動の一例

新領域の確立
(チャレンジ分野)

防災等の社会課題
解決への貢献

2025年度までの
「製品別」中計目標

センサー主力商品化
(増収基盤の柱)

気候変動等に伴う
リスクと機会の検討

カーボンニュートラルや水・森林資源の
保全への関与

- 課題点
- ・マーケット分析
 - ・商品や技術の応用
 - ・汎用性
 - ・コスト対策
 - ・規模への対応等々

課題克服
への取組

課題克服
への取組

テーマ：漏水検知



- ・水資源の有効活用
- ・インフラ事業への参入

テーマ：土壌水分量検知



- ・水害や土砂災害のリスク回避
- ・防災事業への参入

弊社商品のモニターを依頼し、弊社課題解決のデータ収集



施設側は省力化や各種フィールドテストにも有効

センサー電極水漏れ検知



他社との
事業連携

センサー電極水分量検知

互いの技術力の結集
公共事業・防災事業に
おけるノウハウ吸収



開発コストの平準化
事業エリアの拡大



サステナビリティへの対応 (気候変動)

気候変動に対する取組み方針 (TCFD提言への対応) を策定し、HPに開示

上流	自社		下流		2020年	2021年	2022年	2030年	2050年
<p>Scope3</p>	<p>Scope1</p>	<p>Scope2</p>	<p>Scope3</p>	Scope 1・2の排出量 (連結)	8,907t-CO ₂	9,520t-CO ₂	検証中 ⇒本社・赤穂工場にて クリーン電力導入	約50%削減 (2020年比)	カーボンニュートラル
<small>*その他: ②資本財, ③Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動, ④廃棄物, ⑥出張, ⑧リース資産</small>				Scope3の排出量	検証中	検証中	検証中		
<small>*その他: ①輸送・配送, ②製品の加工, ③リース資産, ④フランチャイズ, ⑤投資</small>				CDPの開示	—	—	簡易版開示 →	2023年には通常版を開示	

検討事項

Scope3排出量を含めた具体的な削減に向けて、資材購買や生産管理のシステムレベルを上げ、よりデータを精緻化し、進捗を確認できる体制も併せて構築中

- 本社・工場設備 : 再エネ導入率の増加、建物本体の建替・増設、機械設備更新時の環境対応強化
⇒ ZEF・ZEB対応等によるランニングコストの削減を同時並行で検討
- 製品素材の見直し : 地球環境へ配慮した【素材/工法】への取組み (CO₂削減 + 事業機会の創出)

ICカード(RFID)の環境対応への取組み



- ◆ 素材
- ◆ パターン形成法
- ◆ IC実装法

現状一般的に使用

PET (プラスチック)
エッチング工法
一般はんだ

- 土に還る
- 廃液無し
- CO₂削減※

新規検討

紙植物由来フィルム
スクリーン印刷
低温はんだ

【※一般はんだとの比較で約3割減】

- 株主還元の拡充：23/3期～26/3期（中計期間中） 1株当たりの配当金下限60円に設定
 - ・ 23/3期：配当金下限60円
 - ・ 24/3期：配当金70円
 - ・ 25/3期：配当金下限60円 + 80周年記念配当分を上乗せ
 - ・ 26/3期：配当金下限60円（配当額未定） } DOEや配当性向の見直しも検討
- 株価・売買高・流動性対策
 - ・ 個人投資家向け説明会開催：弊社への認知度・理解の向上により個人投資家の獲得を図る
 - ・ 政策保有株式の縮減：持合いの解消等による流動比率の維持・改善
 - ・ 自社株取得の検討：株価の安定と引上げを図る共に、自社株はM&Aや事業提携等の戦略投資、従業員持株会の活性化等への活用を検討



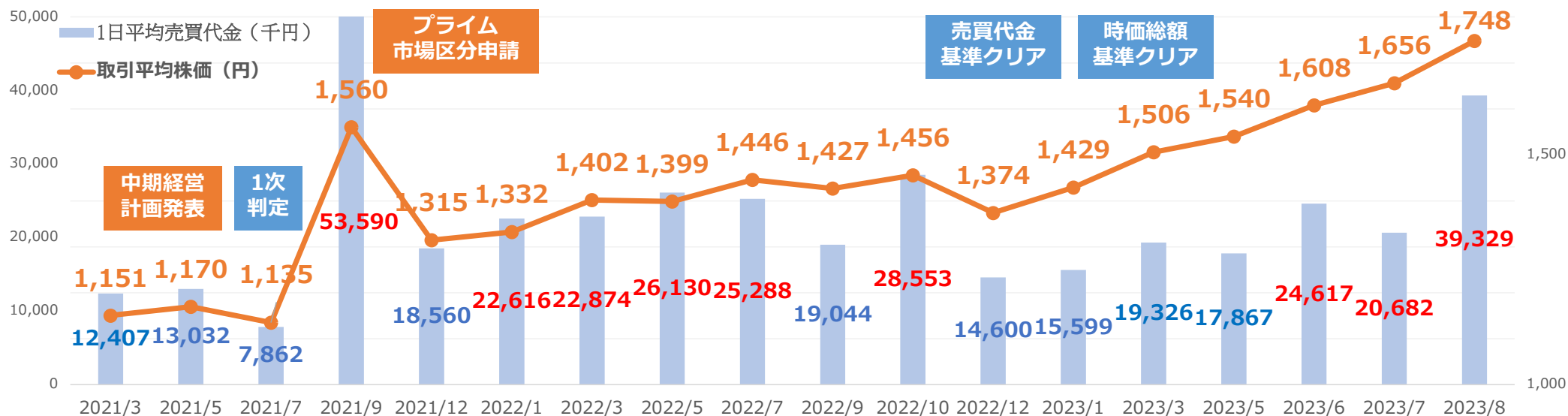
- ・ 深度ある事業ポートフォリオ分析結果に基づき、事業戦略の方向性を見極め、本社・国内外工場の戦力強化・コスト削減を含めた拠点再編を行うことで、利益率の向上を図る
- ・ 在庫適正化、投資有価証券・遊休不動産の処分等の財務戦略による資産のスリム化、CFの捻出を図る



具体的な計画の立案・経営指標目標の見直しや非財務面のKPI設定

企業価値向上によるPBRの改善

プライム市場区分適合状況



項目	プライム市場 上場維持基準	経過措置	一次判定値 (2021/7/9通告)	一次 判定	東証判定結果 (2023年5月23日開示情報)	
(1)株主数	800名以上	800名以上	4,537人	適合	4,343人	適合
(2)流通株式数	20,000単位以上	10,000単位以上	79,777単位	適合	75,892単位	適合
(3)流通株式時価総額	100億円以上	10億円以上	90億円	不適合	判定基準日：2023年3月31日 110億円	適合
(4)流通株式比率	35%以上	5%以上	78%	適合	74.8%	適合
(5)売買代金	1日平均売買代金 20,000千円以上	月平均売買高 40単位以上(6か月)	8,210千円	不適合	判定基準日：2022年12月31日 21,685千円	適合

Together, we make good sense.



本資料に記載されている将来の業績見通し及び予測につきましては資料作成時点における当社の判断によるものであり、外部環境の変化に伴う潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。そのため、様々な要因による経営環境の変化に伴い、実績が本資料に記載された見通し等と大きく異なる可能性があります。

お問合せ先： 帝国通信工業株式会社
経理室
TEL: 044-422-3831
E-Mail: ir-info@ho.noble-j.co.jp
URL: <https://www.noble-j.co.jp/>

補足資料

- 財務データ
 - ▶ 各種指標
 - ▶ 連結貸借対照表
 - ▶ 連結キャッシュフロー
- 弊社グループ概要
 - ▶ 国内拠点の展開地域
 - ▶ 海外拠点の展開地域
 - ▶ 弊社グループの特徴と強み
具体的製造工程①～⑥
 - ▶ コア技術を活かした2つのビジネス展開
市場別主力製品①～②
- 非財務面の取組み（一部抜粋）
 - ▶ 人財採用・育成と社内環境整備
 - ▶ SDGsへの取組み①～③

	2019/3/31	2020/3/31	2021/3/31	2022/3/31	2023/3/31
売上高(百万円)	13,207	12,499	12,022	15,109	16,493
営業利益(百万円)	999	624	755	1,698	1,601
EBITDA(百万円)	1,632	1,301	1,452	2,474	2,423
純利益(百万円)	953	-84	755	1,582	1,385
総資産(百万円)	25,504	24,575	27,270	29,087	30,306
純資産(百万円)	21,663	21,202	23,063	24,348	25,697
ROA(%)	3.7	-0.3	2.9	5.6	4.7
ROE(%)	4.4	-0.4	3.5	6.8	5.7
PER(倍)	12.5	-138.8	14.3	8.9	10.7
PBR(倍)	0.56	0.56	0.48	0.59	0.59
EPS(円)	97.06	-8.55	76.74	161.60	141.53
BPS(円)	2,157	2,111	2,297	2,433	2,567
一株当たり配当金(円)	50	50	40	60	60
配当利回り(%)	4.1	4.2	3.6	4.2	4.0
配当性向(%)	51.5	-	52.1	37.1	42.4

連結貸借対照表

NOBLE

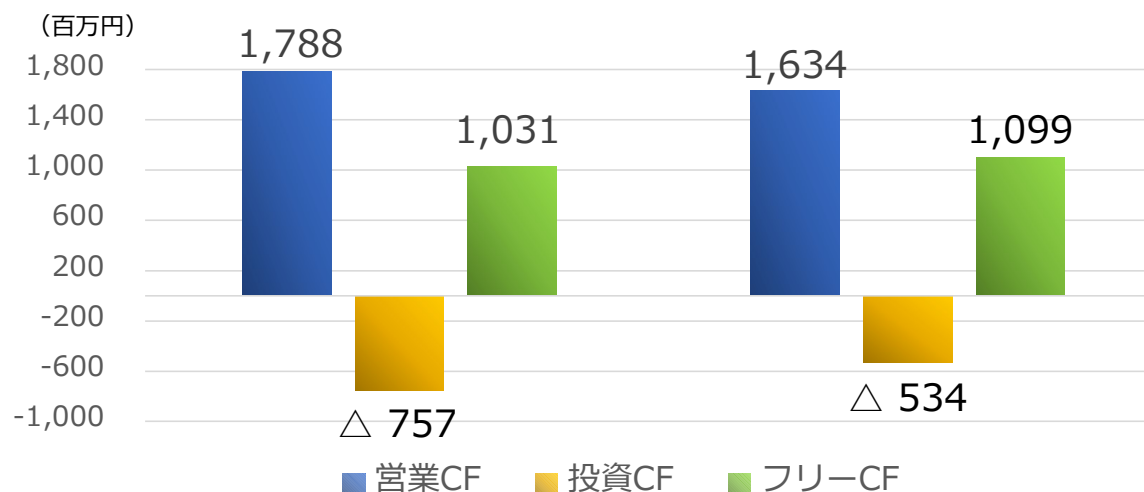
(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	増減
	流動資産	17,811	19,074	1,262
	（ 現預金	9,803	10,400	596
	売掛債権	4,127	4,517	390
	棚卸資産	3,196	3,562	365
	固定資産	11,275	11,232	△43
資産	合計	29,087	30,306	1,218
	流動負債	2,894	2,662	△231
	固定負債	1,845	1,946	101
	負債	合計	4,739	4,609
純資産	合計	24,348	25,697	1,348
	（ 株主資本合計	21,558	22,302	744
	その他の包括利益累計額合計	2,265	2,827	562
負債純資産	合計	29,087	30,306	1,218

連結キャッシュ・フロー

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,788	1,634
投資活動によるキャッシュ・フロー	△757	△534
フリーキャッシュ・フロー	1,031	1,099
財務活動によるキャッシュ・フロー	△648	△750
現金及び現金同等物の期首残高	6,842	7,510
現金及び現金同等物の期末残高	7,510	8,112

- 営業活動：税金等調整前当期純利益（2,043百万円）、仕入債務の減少（442百万円）等
- 投資活動：有形固定資産の取得（860百万円）、投資有価証券の償還（400百万円）等
- 財務活動：配当金の支払い（637百万円）等



国内拠点の展開地域



海外拠点の展開地域



帝通の強み

幅広いニーズに応えるべく、独自のフィルム印刷と成型・プレス加工という2つの技術をコアに、設計・開発・アセンブリまで自社で一貫生産対応を基本に様々なオーダーにこたえられることが私たちの強みです。



製品設計

お客さまのご要望に合わせた、製品設計を行い、各種市場からの要求に応える

金型設計

金型の設計・加工を自社対応し、弊社独自加工の基礎を支える

スクリーン印刷

フィルム・PCB基板への印刷を自社対応し、回路基板を製造する

成型・プレス

成型加工・プレス加工を自社対応する
樹脂には塗装や印刷による加飾加工も対応

組立加工

部品製作・組立加工の設備構築もすべて社内に対応することで、高い信頼性を確保する

環境に配慮したモノづくりの追求



技術革新

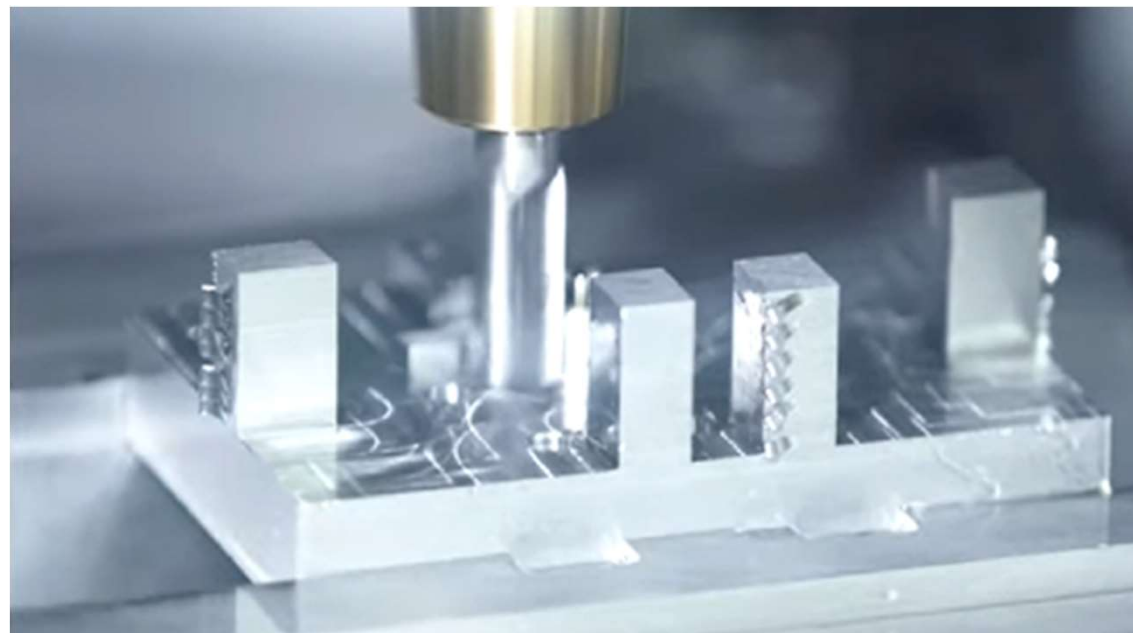


技術革新



高度化・多様化するお客様ニーズに応えるべくベースとなる要素技術開発を進めています。
また「**省エネ・省資源・省原料・リサイクルに配慮したモノづくり**」をSDGsの取組としてグループ全体で掲げ、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。

内製化された金型

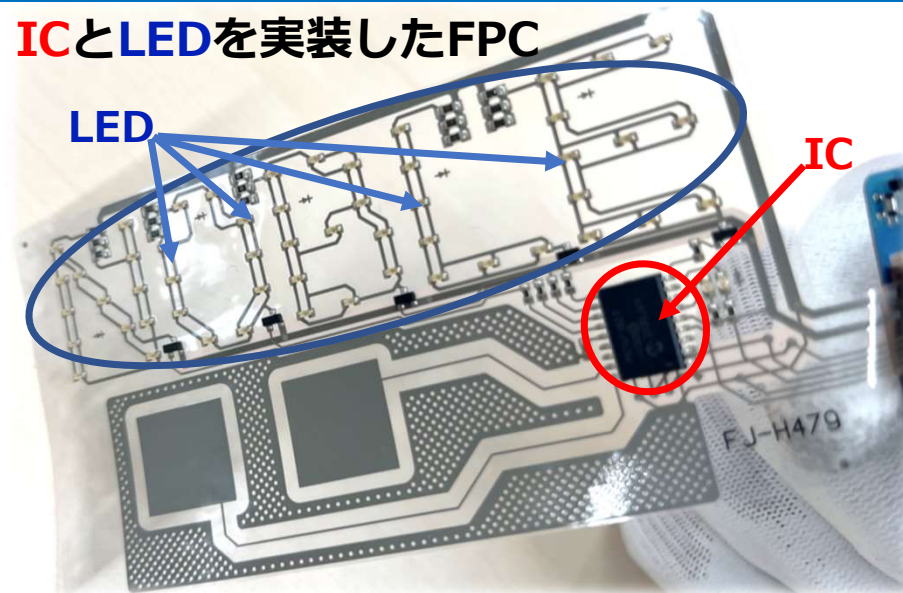


自社で使用する成型金型、プレス金型を設計から加工まで対応。国内外に金型加工部門を保有しております。
弊社独自の生産方式にマッチした自社オリジナル金型の加工を行い、各種難易度の高い一体成型や、高精度な部品加工を実現することが可能です。

NOBLEのFPC※1 (Flexible Printed Circuits)



ICとLEDを実装したFPC



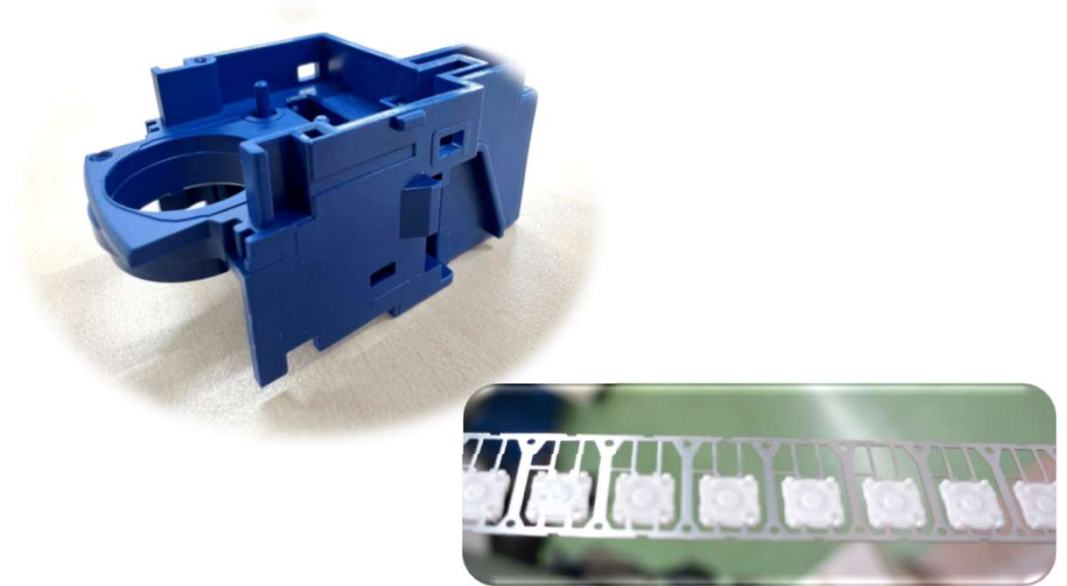
電子回路を形成する場合、一般的に採用されるのはエッチング基板工法です。弊社が行うスクリーン印刷は、**必要な箇所だけにパターンを印刷し、回路形成をするため、製造時の廃棄物が少なく環境にやさしいことも特徴**となっており、基板に使用しているPETフィルムへの半導体などの部品実装※2も実現可能です。

※1 FPC (Flexible Printed Circuits) : 曲げることのできるプリント基板 ※2 部品実装 : 部品を組み込むこと

樹脂成型Injection molding・金属プレスPrecision Press



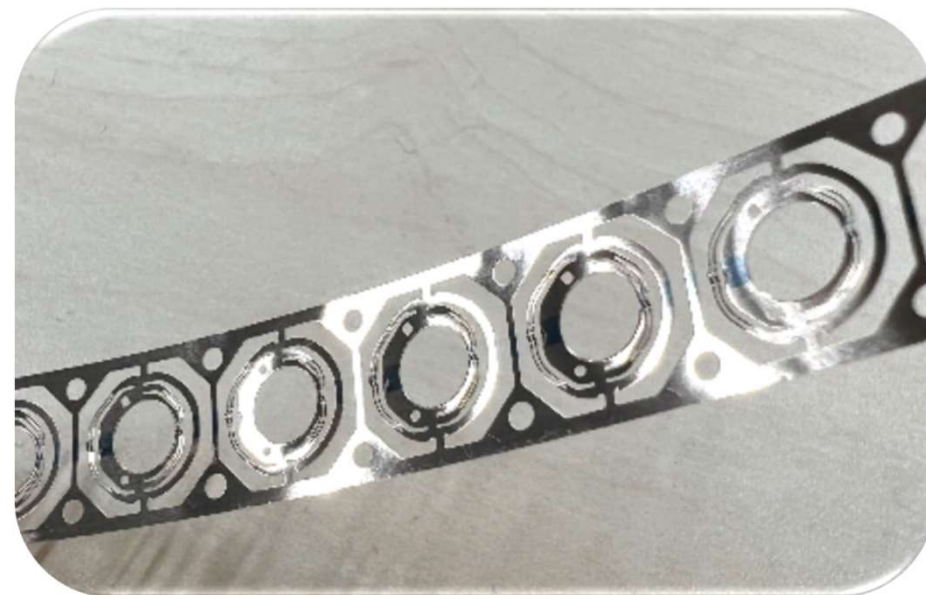
＜国内外に各種樹脂成型機を保有＞



＜金属端子と樹脂の一体成型＞

様々な市場に向けて材料の選定や金型設計を自社で行い、精密機構部品や大型外装部品の生産、成型部品への塗装・印刷も対応しています。また**弊社独自の技術としてFPCや端子を成型樹脂で一体化するインサート成型が高い評価をいただいております。**

Injection molding ・ Precision Press



プレス加工は高速で微細な加工が特徴。電子部品の心臓部となる金属接点は、自社で開発し様々なニーズに対応可能です。高耐久製品には、このプレス加工技術が不可欠になります。

また国内外主要工場にプレス機を保有しております。このプレスを組み立て工程のラインに組み込む技術も、弊社独自の生産方式です。

Automation assembly / inspection



日本国内外とも人手不足は私たち製造業にとっては大きな課題です。

弊社は常にお客さまに安定供給を行えるように、**高い生産技術力で工程の自動化**に取り組んでおります。



国内外の工場では、画像検査や電気チェッカーを導入し、**高い品質を保証**をする一方、認定検査員による、確かなジャッジがお客さまの信頼を得ております。

コア技術を活かした2つのビジネス展開

ICB製品 (Integrated Control Block) >>

カスタムブランド

前面操作ブロックとして生産するICB商品は、当社独自のカスタムブランドです。NOBLE-FPCを中心とした集積回路モジュールは、各種マーケットからの独自要求に対応しております。



自動車



AV機器



ゲーム・
ホビー機器



家電機器



医療・
ヘルスケア



事務機器・
産業機器

ディスクリート製品 >>

汎用電子部品



可変抵抗器



センサ (抵抗式)



半固定抵抗器



エンコーダ



スイッチ



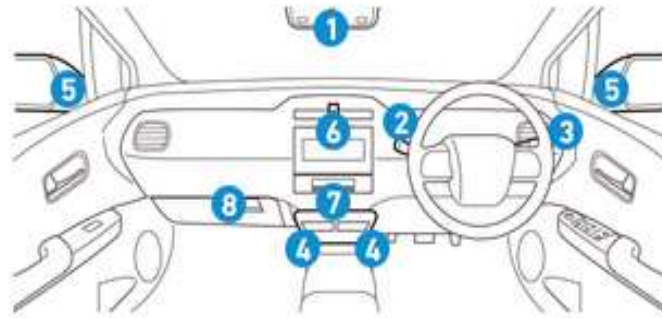
固定抵抗器



プラグ

市場別主力製品①

自動車



- ① マップランプ スイッチ
- ② 間欠ワイパー調整 可変抵抗器
- ③ ライトレベリングコントロールユニット
- ④ 空調シートコントロールユニット
- ⑤ ドアミラー 位置センサユニット
- ⑥ ハザードランプ スイッチ
- ⑦ エアコン 操作部ユニット
- ⑧ HVACアクチュエータ センサ基板

可変抵抗式位置 センサー

主に使用



③ヘッドライト角度調整



⑦エアコン温度調整



⑤ドアミラー角度調整



市場別主力製品②

NOBLE

ゲーム機器



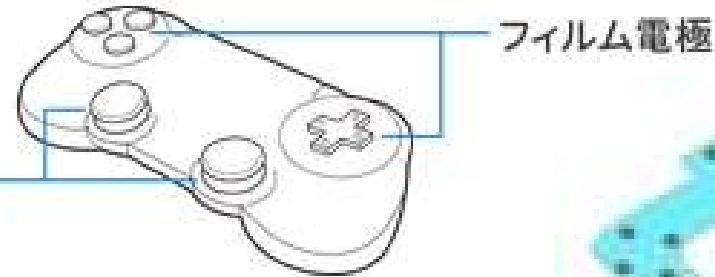
可変抵抗式位置
センサー

NOBLE-FPC



コントローラー操作部

センサ (抵抗式)



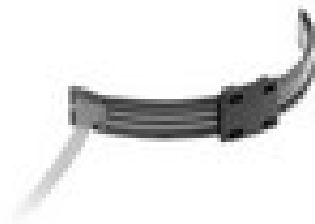
フレキシブル
プリント基板



AV機器



可変抵抗式位置
センサー



カメラ



操作スイッチ
ユニット



人財採用・育成と社内環境整備



● 人財採用・育成：従業員意識改革、Change・Challenge・Communicateの実践

	2022/3期	2023/3期	2024/3期予定	備考
◆ 従業員数推移（連結ベース）	1,605名	1,677名	未定	
うち本社・赤穂工場における 新規正社員採用実績	3名（うち女性1名）	10名（うち女性2名）	10名（3名）	採用を強化すべく、本社施設の充実や企業理解度向上への取組を併せて実施
うち本社・赤穂工場における 中途正社員採用実績	9名（うち女性2名）	6名（うち女性0名）	未定	
◆ 研修制度	・オンライン研修制度の導入 ⇒全社員・管理職向け	・階層別・職域別研修制度の導入 ⇒次世代管理職向け等順次展開	・SDGsを含む中期経営計画目標達成に貢献する社員の背中を押す制度を導入予定 ・相互理解、コミュニケーション活性化のためのグローバルフィールドを活かした人事交流研修を検討 ・グローバル人材育成制度の更なる検討	社内モチベーションの強化や教育制度の更なる充実を検討中
◆ その他育成		・創立80周年イベントメンバー選定 ⇒若手メンバーによる社内活性化 ・国内外本社・工場管理職によるテーマ別グループ討議の導入 ⇒企業価値再発見・向上	・創立80周年イベントの企画、準備 ⇒2024/8（80周年）前後に对外発表	

● 社内環境整備：事業リスクの見極めと対応強化を図るべく経営体制を見直し

項目	具体的内容	備考
◆ コーポレート・ガバナンス	・取締役1名（男性）・社外取締役1名（女性）追加による取締役会の強化（合計6名⇒8名 社外取締役比率33%⇒37.5%）	2023年6月29日第101回定時株主総会における承認および株主総会後の取締役会における決議によって決定
	・執行役員2名（男性）の追加及び再編による執行役員会の強化（合計9名⇒11名）	
	・開発部商品企画室⇒商品企画部への再編 ⇒新領域や成長分野を中心とした商品開発力の強化を図るべく、単独「部」へ変更	2023年4月1日より変更済

SDGsへの取組み①

- 当社は、企業理念のもと、電子部品の製造とサービスを通じて持続可能な社会の実現に貢献することが、事業の継続と成長を図るうえで重要であると確信している。
- SDGsの活動は、当社の企業理念とも合致する部分があり、その実現に向けた取組みを経営方針や経営計画に組み込んでいる。

	『かながわSDGsパートナー』 帝国通信工業株式会社
	『長野県SDGs』推進企業登録 帝国通信工業株式会社 赤穂工場
	『長野県SDGs』推進企業登録 飯田帝通株式会社
	『長野県SDGs』推進企業登録 木曾精機株式会社
	新規登録 『長野県SDGs』推進企業登録 福井帝通株式会社 ミノフ工場

当社は、SDGsへの取組みとして「3つの柱」を掲げている。

1. 命を守る分野への電子部品の提供
2. 環境負荷を低減する対策の徹底
3. 人と社会を大切にす経営基盤づくり



帝国通信工業Gは連結企業全社のSDG'S推進企業登録を行い、更なる取組みの活性化を図ります。

SDGsへの取組み②（現在行っている取組み）

1. 命を守る分野への電子部品の提供



- ▶ **水位センサーの開発**
非接触のため衛生的で、耐久性・安全性にも優れており、ドリンクサーバー、水田水位計、河川水位などのインフラへの活用が期待される
- ▶ **医療・ヘルスケア機器部品の開発・製造・販売**
生体信号の測定が可能な電極シートの開発・製造・販売を行っている

2. 環境負荷を低減する対策の徹底



- ▶ **給与明細のペーパーレス化を推進**
Web配信へ切り替えた社員約300名分として年換算で約36kgの紙を削減
- ▶ **FSC森林認証紙の使用**
株主総会資料は「FSC森林認証紙」を使用して作成。1回各5,000部として約410kg使用
- ▶ **資源の再利用**
金、銀、銅、銀パラジウム銅は廃棄せず、分別して回収に協力し、回収後は再利用
- ▶ **神奈川県グリーンボンドへの投資**
「神奈川県水防災戦略」における河川・海岸・砂防に関する新たな事業資金として投資を実施

3. 人と社会を大切に する経営基盤づくり



- ▶ **障がい者の雇用の促進と職業の安定への貢献**
弊社関連会社の木曾精機株式会社において、長野県知事より令和3年度『障がい者雇用優良事業所』として表彰される
- ▶ **地域社会学への貢献：学校教育**
2022年度版及び2023年度版の川崎市小学校の社会科副読本「小学校のためのお仕事ノート」に弊社社内容の掲載が決定
- ▶ **性別に関係なく着られる制服を導入**
トランスジェンダーへの配慮だけではなく、機能面や動きやすさといった面も含めて気軽に選べることを重視する

SDGsへの取組み③（これからの取組み）

1. 命を守る分野への電子部品の提供



▶ 医療・ヘルスケア機器部品の開発

生体信号を測定する電極シートの開発・製造・販売を行っている（脳波・心電・筋電測定のほか、血液等体液の生化学検査など）

▶ 防災対策への対応

センサー技術を応用し、水害や土砂災害等への防災リスク回避に資する製品開発に取り組んでいる

2. 環境負荷を低減する対策の徹底



▶ 不良率の改善による廃棄物の削減

製造ラインバランスの改善、不良原因の調査に取り組む

▶ 毎月の消費電力を削減

製造ラインの空調設備の最適化、多数使用されている蛍光灯のLED化、老朽化した設備の更新(ZEF・ZEB)を実施し、電力の削減を目指す

▶ 漏水対策への対応

センサー技術を応用し、水族館等の施設において複数社で漏水対策に取り組んでいる施設には弊社製品を提供することで、製品開発に対するモニターを依頼し、弊社と施設側の課題解決を共同研究という形で取り組んでいる

3. 人と社会を大切に する経営基盤づくり



▶ SDGsを含む中期経営計画目標達成に貢献する社員の背中を押す制度を導入

SDGsを含む中期経営計画への具体的な取り組みに対し、社員の積極性・チャレンジ精神を育む制度充実を検討している

Together, we make good sense.



本資料に記載されている将来の業績見通し及び予測につきましては資料作成時点における当社の判断によるものであり、外部環境の変化に伴う潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。そのため、様々な要因による経営環境の変化に伴い、実績が本資料に記載された見通し等と大きく異なる可能性があります。

お問合せ先： 帝国通信工業株式会社
経理室

TEL: 044-422-3831

E-Mail: ir-info@ho.noble-j.co.jp

URL: <https://www.noble-j.co.jp/>